

令和7年度 第1回三郷町総合教育会議

令和7年11月4日

事務局

本日は大変お忙しい中ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。ただいまより令和7年度第1回三郷町総合教育会議を開催させていただきます。

まず会議に際しまして傍聴を公募させていただいたところ、本日傍聴はございませんでしたので、ご報告させていただきます。

それでは開会にあたりまして木谷町長よりご挨拶を申し上げます。

町長(木谷 慎一郎)

皆様、本日はお忙しい中、令和7年度「第1回 三郷町総合教育会議」にご出席を賜り、誠にありがとうございます。

本会議は、町の教育の基本的な方向性を共有し、教育委員会と町が一体となって、子ども達のすこやかな成長と学びの充実を図るための重要な場でございます。

三郷町では、子育てと就労の両立を支援しつつ、子育てや教育にまつわる負担・不安を減らし、子育てに希望が持てる町をめざしています。昨年度は、不登校児童・生徒の居場所として「ふらっと」を開設し、子ども達に安心して過ごせる場所を提供できるようになりました。「ふらっと」を通じて、子ども達が社会との繋がりや学びを得られる機会をさらに充実させていきたいと考えております。

本日の議題は「今後の小学校のあり方について」であります。この点について、建物の老朽化や児童・生徒数の推移をもとに、ご説明させていただきます。また、本議題に限らず、未来を担う子ども達やその成長を支える保護者の皆様のために、教育委員の皆様から忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。皆様と共に、子ども達がすこやかな成長を遂げ、夢を実現できる未来を築くために、より良い教育環境を整えてまいりたいと存じますので、今後共ご支援とご協力を賜りますようお願いを申し上げ、あいさつとさせていただきます。

事務局

ありがとうございました。本会議の議長につきましては、以前に委員の皆様からご意見をいただきました通り、委員の皆様に順番でお願いするということになっております。

今回は窪内教育長職務代理者にお願いしたいと思います。それでは窪内教育長職務代理者、よろしくお願ひいたします。

教育長職務代理者(窪内 真一)

それでは早速ですが、お手元にお配りしております次第に従いまして議事を進めさせていただきます。次第の 2 案件、今後の小学校のあり方について、町長よりご説明をお願いいたします。

町長(木谷 慎一郎)

はい。着座で失礼いたします。それでは今回、教育委員の皆様に、今後の三郷北小学校について、私の見解をお話したいと思います。ですが、その前段としまして、まず、三郷小学校を含めた「信貴山下駅周辺施設整備基本構想」について簡単にご説明させていただきます。お手元にお配りしております資料をご覧ください。

基本構想の趣旨・目的でございます。基本構想を策定するに至った経緯を記載しております。

信貴山下駅周辺には、下の図にありますように、主に7つの公共施設がございます。その7つの施設の大半が、建設から数十年経過しており、改修や建て替えなど更新の時期に差し掛かっています。ちなみに、三郷町役場は築 58 年、三郷小学校が築 55 年、福祉保健センターが築 41 年、文化センターが築 40 年、スポーツセンターが築 38 年、ウォーターパークが築 34 年、図書館が築 28 年、となります。このうち、三郷町役場と三郷小学校は既に耐用年数を超えております。

このような中、建設当時から人口構成が変化し、町の財政につきましても厳しくなってきている状況で、これら7つの施設をそれぞれ単体で更新していくことは難しいと考えております。そこで、7つの施設を可能な限りスリム化するため、それぞれの施設の状況を把握した上で、更新や統廃合等、長期的な視点でより実効性の高い基本構想を、現在、策定しているところです。

この基本構想は、今年度中に策定したいと考えており、文化センターや図書館、スポーツセンターにウォーターパーク等、教育関連施設が大半を占めることから、策定後、改めて教育委員の皆様には基本構想の内容をお伝えしたいと考えております。

なお、委員各位もご存じのとおり、三郷小学校は築 55 年ということもあり、建て替えの方向で検討しているところであります。

では、なぜ今三郷北小学校の今後についてお話をさせていただくかということで、資料の次のページをご覧いただきたいと思います。

施設の概要一覧です。

先ほど、三郷小学校は築 55 年と申し上げましたが、一方の三郷北小学校におきましても、築 44 年が経過しております。10 年後には、三郷北小学校においても、現在の三郷小学校と同様に、老朽化による大規模改修もしくは建て替えを検討していく時期に差し掛かることになります。資料の次のページをお願いします。

こちらは、児童数の推移を表したものになります。

本年 9 月 1 日時点での出生数を基に、校区別に算出したものになります。ご覧いただきますと、三郷小学校では児童数に大きな変動はありませんが、三郷北小学校では令和 7 年度 645 名に対し、令和 13 年度は 465 名で、180 名と大幅に減少する見込みとなっております。1 クラス 35 人学級で考えますと、現在の三郷小学校と同じ、1 学年 2 クラスになっていくことになります。

最後に、三郷北小学校で毎年度必要となる経費についてご説明いたします。次の資料をお願いします。令和 4 年度からの施設管理費を記載しています。学校管理費は、主に光熱水費や施設清掃、施設警備など学校運営を維持していくために必要な経費を、施設整備事業費は、修繕や工事費などハード面の経費です。次に、教育振興費は、児童用図書などの費用、人権教育振興費は主に人権に係る研修費用です。下段の決算額をご覧いただきますと、令和 4、5 年度のように大きな修繕・工事がない場合は、約 4 千万円から 5 千万円で留まりますが、令和 6 年度のように、空調設備工事等の臨時的な工事などの経費が上乗せとなると 1 億円程度を要する年度もございます。なお、資料の下段に記載しておりますが、これら管理費のほかにも、三郷町が独自で雇用している教職員の人事費が毎年度約 3 千万円支出しております。以上のように運営には毎年度、多額の経費が必要となっております。

以上のように、今後の三郷北小学校の運営を考えますと、大きく3点の課題があります。1点目が建築年数の老朽化、2点目が児童数の大幅減少、3点目が施設の維持管理費、これらの課題を克服するため、この度の「基本構想」、特に「三郷小学校の建て替え」につきましては、10 年後に三郷北小学校との「統廃合」も見据えた構想にしたいと考えております。

今回の教育総合会議におきましては、教育委員の皆様にも今後の「小学校のあり方」についてご意見ご助言をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。以上でございます。

教育長職務代理者（窪内 真一）

ありがとうございました。

ご説明の中で何かご意見、ご質問等ありましたらよろしくお願ひいたします。

最初に私から、10 年後をめどに統廃合を進めるということで、具体的に何年度にこうしようとか、この後どういうふうに進めていこうとかというような、何か計画みたいなものはもう既にあるんですか。

教育長（大西 孝浩）

三小、北小の統合についてはこの場で意見をいただきまして、統合に向けて動き出すとなれば、当然令和 8 年度から保護者、議会等にアナウンスしていかなければならぬのかなと考えております。一方、三小建て替え事業につきましては、今の計画とし

ては、令和 8 年度当初予算に基本設計の予算を計上し、なおかつ次年度、令和 9 年度に実施設計、細かい設計の予算を計上して、令和 10 年、11 年の 2 ヶ年、中学校は 2 年ぐらいの工期だったので、5 年後に三郷小学校の校舎が建て替わるのかなと。そのときに本日ご意見いただいた、統合となれば、どういった形で統合するかっていうのは、基本設計がありますので、空き地として持っておいて、北小統合前に校舎を建設していくふうな、今の段階でのざっくりとした計画です。

教育長職務代理者(窪内 真一)

ということは、三小は建て替える、この前提で、その後統合するということになったら、どういう形にするかというのは、その後また検討するのですか。

教育長(大西 孝浩)

今回の基本設計の中で、大まかな形が見えてくるのかなと。ドッキングしたときに、例えば中学校の校舎でしたら、2 階が 3 年生、上に行く度に 3 年、2 年、1 年ということがありますけども、三郷小学校の時は、例えば 1 階 2 階に 1 年生で、というふうに分けていって、そこに当然北小のこどもとドッキングとなりますので、教室の配置も考えていった中で、設計が組まれていくのかなというふうに思うんですけど。

教育長職務代理者(窪内 真一)

三郷小学校の建て替えに関しても、統合を見据えて？

教育長(大西 孝浩)

見据えた形で設計が組まれていくというふうに。

教育長職務代理者(窪内 真一)

ということは、10 年をめどに統合ということだから、北小の校舎は統合となれば使わなくなつて、新しく建てる三小のところで、

教育長(大西 孝浩)

はい、学びの場ができるということです。

教育委員(下方 恵理)

すみません質問です。北小を、いわゆる統合するにあたり、北小がなくなる、学校としての施設ではなくなるということでもう決まっているということでよろしいですか。まだ、今から議論段階ですか。何が聞きたいかっていうと、なぜそういう方向に進んだのかっていうことなんです。北小を残す、もしかすると北小を残して三小を何らか

の形に変えるのもあったと思うんですけど、三小を残して北小を違う形に変えるっていうところはなぜなのか。というのも、やっぱり小学生で歩いて登校するのに距離が遠くなる。イーストヒルズの人たちも、やっぱり三小だけになると、“え”ってなりますし、もっと遠くの夕陽ヶ丘であったりとか、なんでそっちに選ばれたのかなっていうところの背景をお聞きしたいなと思うんですけれども…。もしそこがまだ議論するべきところなのであれば、もう少しデータも集めて、今、北小の管理維持費がこれだけですょって、かかってるんですよっていうデータはあるんですが、三小側が、出ていないっていうところで比較しないといけないし、子どもが減少していくっていうところでは、三小は減らないけれども、北小でももしかすると増える可能性も考えられるっていうところもあつたり…。なぜ三小をっていうふうになったのかなっていう背景を、教えていただいているでしょうか。

町長(木谷 慎一郎)

まずはこの三小と北小の統合ということ自体が決定というわけではなくて、皆様のご意見を聞きながら考えていくことですけども、これはもう町としての案でございますので、そこは一緒に検討していくたらいいかなというふうに思います。で、今回、なんで北小への統合ではなくて、三小への統合ということになったかというと、この、基本構想を検討しているときに、これから三郷小学校をどのように建て替えていくかということを考えたときに、その町の中心部にある三郷小学校、元々北小自身が三小から分かれた分校みたいなものですので、そういう意味では本来の、元々の形に戻るというようなところであつたり、三郷北小学校自体は、かなり三郷町の端の方にございますので、かえって立野の方から通えるのかという話が出てくるんだろうなというふうに、お話を聞きながら考えておりましたので、この基本構想をメインとしつつ、その以前あった形に集約していくという、方向性を合わせたものというふうなイメージで見ていただければいいかなと思います。

教育長職務代理者(窪内 真一)

他にございますか。どうぞ。

教育委員(篠原 英子)

はい。もしも統合すると考えた場合に、まだまだ構想なんであれなんですけども、大体の目安として、どちらへんっていうか、どのあたりに小学校を建てよう、今の三小の場所なのか、もうちょっと三北よりの校区の方になるのかっていうところがあつて、それによって、やっぱり夕陽ヶ丘とか三室の西和医療センターのあたりの子たちが、通学するにあたっての距離感のところで、そこまでいかなかんのんっていう、1年生の子が歩く、暑い中とかっていうところの、親の気持ちを考えたときに、大体どちら辺

なのかなっていうのは決まっているんでしょうか。

町長(木谷 慎一郎)

もちろん確定したものではございませんが、基本的には今の三郷小学校の敷地内での建て替えを考えています。で、遠くなるというのは、あるのはあるんです。

教育委員(篠原 英子)

そう見たときの通学路が大体目星をつけておかないと駄目かなというのはあったんですよ。

教育委員(下方 恵理)

そこはどうするって、決まってからまた具体的に、子どもが安全にそちらに向かえるかっていうところを考えていかないといけないと思うんですね。もう心配どころがやっぱり盛りだくさんあると思うんですけども、例えばバスを出して、元々子ども達が歩いて登下校すること自体危ないので、そこがバスで登下校できるようになれば安心、安全の確保っていうところもできたりするなと思うんですけども。

そもそもその議論するにあたって、やっぱり学校教育の場ですので、教育の質の担保っていうところで考えると、どうすればいいのかなっていうふうに、ずっと考えてたんですけども、やはり 6 年間 3 年間の小中一貫っていうところを三郷町も進めていっています。その中で、やっぱ独立型であるがゆえに少し進みにくい場面も所々あるのかなって感じてます。で、もしこれが、三郷小学校と三郷中学校、あの近い距離で、運動会をしていても三郷小学校から、中学校ファイトみたいな横断幕が出ているとか、ああいうの見ると、やはり、小中一貫型で教育を進めていくと思うと、やはり近いところで一緒にできる方が、内容が充実するのかなというふうには思ったりします。

なので、その通学っていうところは問題になるんですけども、そもそも三郷としての教育のあり方として、質の担保として、どっちがいいのかなって重要なと思いました。

教育長職務代理者(窪内 真一)

ありがとうございます。どうですか。

教育委員(秋田 知美)

数年前、私が勤務した小学校は、隣接する小学校と 3 年後に一つにするということで動き出していました。それはちょうど隣接校が 150 人を切ることが明らかになった時でした。150 人という数字は統合のめどとして、その数年前から保護者にも周知を図っていました。分離して 40 年を経た二つの学校には、それぞれの文化があるの

で、その時点からいろいろ話し合いを始めました。PTA 活動ももちろんですし、それぞれの学校文化を融合させるために、教師同士も何度も話し合いを重ねました。とりわけ、こども達にとっては経験のない出来事になるので、接続がうまくいかなかったということにはできません。さらに、保護者が一番心配していたのは、通学路のあり方でした。勤務していた町には地域を分断するように西名阪が通っているので、これをいかに考えるかという問題がありました。

小学校を統合することで、メリットが大きいのなら賛同者も多いでしょうが、全校児童 150 人と聞けば、一クラス 30 人未満なので、より豊かな教育ができるのではないかという発言もありました。

統合の前例として平群町の小学校がありましたが、新たな小学校として歩むため、校名も、校歌も全部変えた枠組みをつくりました。それとは違い、勤務町の場合は分離以前の状態に戻すことを前提に進めました。しかし、元に戻すことは簡単なことはありませんでした。三郷町もそうですけど、今の通学路一つを挙げても 50 年前とは全く違うので交通状況や熱中症など、やはり不安を感じます。勤務町では、提出されたパブリックコメントを明らかにしながら、様々な不安を払拭していく作業を繰り返し、一つの方向性を出していきました。

三郷町の場合は、令和 13 年度からにしても、北小の方が子どもの数が断然多いですよね。この事実一つをみても、保護者が了解できる話にはならないだろうと想像します。それでも、必ず三郷小学校舎を建て替えなければならないということなので、次の 50 年を見据えて考えていかないといけないと思います。数年前、町では中学校の校舎建て替えを行いましたが、6・3 制も合わせて考えていく時期がきているようになります。他では、4・5 制にしようかという動きもあります。ただ単に今の形態の三小に戻るような形だけでは、10 年後、三郷北小の保護者の納得性は得られないよう思います。もっと魅力ある三郷町にするのだ、魅力ある三郷小学校にするのだというビジョンを掲げて建て替えを提案していかないと、と思います。

さっきも仰ったように、ひょっとしたら三郷北小の児童数がさらに増えていくことも想定できます。令和 13 年度以降に増えていく、そんな可能性も含めて練り上げて決めていかないといけません。まとまってない意見で申し訳ありません。

教育長職務代理者（窪内 真一）

ありがとうございます。今ご意見いただいたんですけど、私もちよと意見させていただきます。

今までに秋田さんが仰られた通り、こちらの小学校の人数がものすごく少なくなつていったから、これをより大きい人数のいる学校に統合しますっていうのは、何て言うんですかね、筋道がわかりやすいというか、ある程度わかりやすいんですけど、北小と三小の場合は、人数が今北小減ってくるのが予想されるとはいえ、三小より多いわ

けですから、なかなかご理解をいただくためには何かが必要。それはもう秋田さんが仰られた通り、遠くても三小に行くだけの価値があると思える何かがあれば、三小に統合されてもという話はその通りだと思います。

それで翻って考えてみると、小中一貫っていう大きなテーマを掲げて三郷町教育委員会はここ数年やってきたわけですけども、それを考えると、下方さんが仰られた通り、中学校と小学校がすぐ近くにあるっていうのは、物理的に近くにあるっていうのがいいんだなっていうのは、以前明日香村に視察に行ったときすごく感じました。だから、物理的な近さっていうところから、小中一貫の教育をもう一度こういうふうにやっていくんですっていうのを打ち出すことができれば、三小まで行くっていう理由は、出てくるのかなというふうには思う、出てくるというか、理解いただけるのかなっていうふうには感じます。

で、どうしても保護者の気持ちとして考えたらあの三中の建て替えのときもありましたけども、やっぱり通学のときの安全っていうのが、一番大切なことだと思うんです。最近あんまり全国の交通事故死っていうのがテレビやニュース新聞等であんまり問題に、昔私達が小学生の頃は交通戦争と言われてたぐらいいものすごくあったんですけど、最近そんな大きな問題として取り上げられなくなつたとはいえ、交通事故、奈良県では非常に警戒しないといけないという状況が、ここ数年何回も起こつてましたし、それを考えると、熱中症のことも考えて、やっぱり何らかの交通手段っていうのは、何かしないといけないんだろうなというのは、保護者目線から考えると感じます。

だからそういうことも含めて、今後計画を立てていっていかないと保護者説明にもちょっと難しいんじゃないかなという気がいたします。三郷中学校建て替えのときの保護者説明会が始まった段階よりも、非常にまだ手前の段階ですから、もうちょっといろいろ、そこら辺も含めて検討した上で、保護者に意見を伺うというふうな段階にいた方がいいんじゃないかなと感じました。

すみません。三郷小学校を新しく建て替えて、北小が耐用年数的にはまだ後の方だからということで、先に建て替えの方で考えようっていう、それを今の段階の情報では、何か行政の都合でやろうとしてるんじゃないか、うがった見方をされてしまいかねないので、やはりこども達の教育を考えて、こういうふうにしたいですと、ついては耐用年数を考えるところなりますっていうふうに、話がちゃんと進むようにしていただきたいなと思いますし、今北小が、明らかに物理的に児童数多いわけですから、そしたら三小に来るってなつたときに、この北小に行ってたこども達、いったい、どういうふうに、どの地域から何人来るのかを考えると、遠方から来ることの方が多いっていう小学校に当面はなるというのが、今既に見えているわけなので、やっぱりそこは十分に考えないといけないと、今、ご意見を伺つて感じます。

教育委員(下方 恵理)

すみません。私のことになるんですけども、三郷町に引っ越ししてくるのに、やはり子どもがどんな環境で育っていくのかっていうところを考えて、どこに引越しするかを決めたんですね。三郷北小学校が、イーストヒルズからは通いやすい、近くにありますよというので、あとは自然豊かなところであったり、落ち着いた場所であったり、三郷町で住むことに決めたんですけれども、やはり個人的な気持ちの面では、三郷北小学校が、今後子どもが減ることによって、なくなっていくっていうのは、そこがあるからここで子どもを育てようって決めたところもあるので、とても寂しい思いもします。ですが、三郷町のこの現状を踏まえて、どちらかを統合するってなると、どちらをどうするのという議論になり、やはりそこを三郷町でぐっと住民たちと一緒に進めていくと思うと、教育がこう変わりますよであったり、三郷町の子ども達はこういう教育を受けられますよっていうところで、こんなふうに成長していきますよっていう、その辺が見える化できるというか、説明できるような構想が必要なのかなと思うんですね。その柱がやはり三郷小中一貫というところが軸になってきて、ここがより進んでいくんですよ、だからこういう教育のもと、子ども達が成長していきますよっていうのが、ちゃんと伝えられるように、もう少し教育改革といいますか、教育計画を皆で考えていかないといけないのかなと思います。

もっとIT化も進んでいきますし、子ども達のいろんな教育というのが、今後ももっとキャリア教育も進んでいくと思いますし、そこで何ができるか、小中一貫校だからね、秋田さんが仰ったように、4・5 制になるであったりですとか、もう担任制を廃止するであったりとか、実際に子ども達が毎日通わなくていいような、20 年後とかに 1 日はリモートで、6 年生はリモートですよ、1 年生から3年生は来てくださいねだったり、交代になっていくような学校のあり方であったり、本当にいろんな可能性を秘めた教育の形が今後出てくると思うんですね。三郷町としてどうしていくかというのを、住民の方に納得していただくような計画を、作っていって、だからそれを進めていくのに、こちらの学校ではこのようにしてというふうに考えていけるといいのかなと思います。

こちらに書いてある基本構想、長期的な視点でというふうにありますが、長期的というところは何年後を考えられた、長期的な視点なのかなと思ってみたりですとか、あと、子どもが減少するにあたり、やはり統合していきましょうという話のもと、いやいや、子どもを増やす計画ってどうなってるんですかっていうところであったり、このままそれを見ていって減っていきますよね、じゃあもう学校減らしましょうかとか、ここの施設なくしましようかっていうふうになっていってもいいですか、っていうところも、やっぱり考えていかないといけないですね。そうなっていくのが見えているからこそ、こうしていきますよっていうのを、しっかり教育の間で、教育だけではなく三郷町として、いかに三郷町に住んでいただく人を呼んでいくか。実際統合のときに、そのための何か動かれましたかっていうふうにもなりますので、その辺の構想もこう動いています、

こういうことをします、これぐらい増える見込みです、など、やっぱり長期的な視点というところでは、そこもやっぱり考えていきたいなと思いますが、町長いかがでしょうか。何かこう住民を増やしていくっていう方向の考え方も同時に進んでいるんでしょうか。

町長(木谷 慎一郎)

今回データを出させていただいているんですけど、これもあくまで今の予想で、ということで、令和 13 年までは概ねこんな感じになるとは思うんですけども、子どもの人口を増やしていくということ、方向性自体を諦めたわけではありませんので、そこは全力でやっていくつもりです。で、ここからのこの予想を含めて、先の予想がいい方に外れたらそれはそれで、そのときに考えていかなければいけないかなとは思うんですけども、他の自治体の中には小学校が何校もあって、それをどうしていくかというところを、やはりいろんなところで意識をされ、考えられてるんですけども、中には小規模になっても維持していくんだという方針を既に明らかにされてるとこも結構あったりするんです。それはそれで地域の何かの交流の場を兼ねて小学校維持していくんだっていう話をされてる方もいらっしゃるし、それは一つの方向性だとは思うんですけども、三郷としてはこの三郷中学校、三郷小学校を、町の中心に置いて、そこで下方委員が仰ったような、小中一貫を更に充実させていくこともありますし、今まででは 2 校に分散していた教育投資を一校に集中していくことでさらに魅力を上げていくという方向性もやっていけるのではないかというふうに考えております。

教育委員(秋田 知美)

今、かつての勤務校のお話をさせてもらいましたが、現在、いくつもの学校が統合に向けての話が出ていると聞きます。とりわけ、建て替えをどうするのかという問題は必ず起こってきます。これまでと同様の単なる校舎ではなくて、そこに通いたいと思わせるような学校施設を作っていくことが何より大切です。今後の 50 年を考えるということです。今までの 6・3 制での小中学校ではなく、もう少し柔軟に幅広く考えた校舎作りをしていかないと保護者、地域の人たちからの納得性がなかなか生まれてこないのではないかと思います。

教育長職務代理者(窪内 真一)

ありがとうございます。今のお話に、ちょっと確認なんんですけど、6・3 じゃなくて 4・5 とか、っていう話になるということは、この三小と北小の話で言うと、例えばですよ、北小の校舎は何らかの形であって、こっちに三小の建て替わった校舎があって、三中も横にある。そしたら、遠い子たちが 1、2、3 年の間は北小に通うのが、高学年になつたら三小に通いますってそういうふうな考え方ということですか。

教育委員(秋田 知美)

そういう考え方も一つできますよね。1年生から4年生までは三郷北小学校に通い、小学校に慣れてから三郷中学って呼ぶべきなのはわかりませんが、その三小跡地に完成した校舎の方に行くという考え方です。

三郷北小をいはずれはなくしていく方向であるならば、なお一層、新しい校舎を豊かな、こども達が通いたいというものに作り変えていくという考えを持っておかないと、と思います。昔は通っていたから、今も通えるとは思わないのではないかでしょうか。登下校だけでもいろいろ問題があって、夏の熱中症を一つとってもそうですが、そこまでして通わさないといけないかと思ってしまいます。

教育委員(下方 恵理)

そうなってくると、三郷町に住もうって、こどもできたから三郷町で育てようって思う人が、減ってくる。その選択、三郷町だから、三郷町に良い学校あるからとか、三郷町は便利だからとか、こども育てやすいから、引越しするならやっぱり三郷町にしようよっていう人が減ってくるって言うと、やっぱりもうこのデータ通り、どんどんこどもが減っていくっていうことになりますよね。だから、こどもを増やすのは親なので、親世代をもっと増やしていかないといけない。その取り組みも同時に、ちゃんと進めておかないと、何か減ってきたね、じゃあこうしましょうっていう、そうなるのはちょっと違うかなと思うんですよ。同時にそこもきちんと形にして進めておかないと、何かそれをね、わかってたことを何も対策とらないでっていうふうに、そうではないと今聞いて安心したんですけども、親世代が、新規の三郷町民はそこも呼び込みたいところですけれども、もうどんどん大きくなって、大学・社会人となっている、その三郷町で育った子たちがまた戻ってくるような仕組みっていうところを、作っていて欲しいなと思います。二十歳の成人式でみんな帰ってきたら、今度町の主導で「30歳のホームカミングデー」みたいなものを作って、30歳ぐらいでみんな結婚考えたりとか、こどもをどうするとか、ちっちゃい子おんねんっていう話とかをして、三郷いいよ、で、三郷でこどもを育てようであったり、そこでまた結婚したりとか、そういう出会いの場を、町が主導して、みんなで三郷町戻っておいでというのを作るような循環でという、こどもをが減ってきてるからこども達を増やすというよりかは、そのこども達が増えるということは、親世代が増えてくれるということなので、その親世代がどんどん今出ていく状況にもあるので、また帰っておいでっていうこともしていく。

町としても、もっともっと三郷町広報で、計画されてると思うので、三郷町のまちづくり、変わっていくところね、考えられていると思いますので、その辺ももっと魅力ある町である発信をしていくって、住んでくださる方を増やしていく。そこにはやっぱり教育の充実というのがもう必ず必要になってくるので、施設も縮小していくって言うところはとても悲しいので、どうにか縮小ではなく、その小さくなつたとしても充実なんだよ

っていうところが、みんなのアイディアで、うまく形づくられないかなと思うので、今後そういう意見をたくさんいろんな角度で出して集約していけたらいいかな。

教育長職務代理者(窪内 真一)

私もちよつと今お伺いして感じたことがあるんですけど、すみません、さっきは言わなかったんですけど、この話を最初に見せていただいたときに、最初に感じたのは、これで小中一貫、真剣にもう1回、いや今も真剣ですよ、今も真剣ですけど、もう一度新たに考えを深めていくことができるんじゃないかなというのを感じました。っていうのは、やっぱりもし三郷小学校になるっていうことになったら、三郷小学校と中学校一緒になる。ということで、以前明日香村に視察に行ったときのことがものすごく強烈に残っててですね、明日香村でも、小学校、こっちの地域小さくなってきてとか、今度建て替えるときどうするってのは、ものすごく悩んだ末に、一緒にして、一緒にした上で英語教育をものすごく充実させて魅力ある学校にしようということを必死で考えて、で、中学校の子ども達はもう小学校のときからかなりネイティブな英語、本当に我々が思ってるよりも、ものすごく英語に接する教育をされてたんですね。で、中学校の子たちは、校外教育を行ったときとか、修学旅行を行ったときに、外国人の人を見つけると、英語で話しかけていく子がものすごく多かったっていうのを聞かせていただいて、やっぱりそういう、思い切って魅力のある教育を、これを機会に考える契機としようっていうふうにできるんじゃないかなというふうに思いました。いや、今までも一生懸命やってるんですけど、だけど、これを機会に、その校舎の耐用年数きますから建て替えますっていうのが、一つのきっかけではありますけど、それをきっかけにして、これを見てみてみると、いや、これちょっとなかなかいろいろと調整出てくるなっていうふうなことがあるということは、逆に言うと何かを変えるきっかけになる。大きなチャンスと捉えると、いろんなことができるんじゃないかなと思いますので、いろんなことを考えていった方が、小中一貫をもう1回、一からどんなふうに話し合ってたかな、考えてたかなっていうのは僕もちよつと見て、思い起こしてみようと思っています。だからこれを前向きに捉えた方が、すごくいい町の教育作りができるのじゃないかなと感じました。皆さんのお話を伺ってても感じます。

教育委員(篠原 英子)

人口を増やしていくっていうか、やっぱり三郷町がいいって思ってる20代30代の保護者の方、親御さんたち、結構ここで子育てをしている方おられるんですよ。一旦は出るけども、やっぱり住むなら三郷町でっていう方もおられまして…。だから、何かわかってる人にはわかってる。高校生の同級生やったりとか、どっかで知り合った同級生やったりとかを、三郷町ってええとこやでって言って、引き寄せるじゃないですけども、引き寄せててくれる、紹介してくれる親御さんたちも、親というか大人の方もお

られるみたいで、ほんの一部になるんですけど、そういうお母さんの声を、子育て支援センターで私聞いてるんですけども…。またこの三郷町同士のね、何かのきっかけで、ほんまにそれこそ二十歳の集いだったと思うんですよ。そういうときのきっかけで、ちょっと知り合ってまた再開したことによって、三郷町同士で結婚したりとかっていう方もおられますので、何かいろいろとアピールしていくっていうことは必要かなと思いますし、現に、今してもらってますよね、なんかいろいろと婚活パーティーとかしてくれてはるみたいやし…。下方さん言われたように、20だけじゃなくて30、40、その節目のところ、っていうのも本当にいろんなアニバーサリーって皆さん好きなので、そういうのちよつとこっち側に呼び戻すっていうのも一ついいかなと。

私、三郷北小学校の、結局あそこの学校がなくなるっていうところ、学校の名前がなくなった、徐々になくなっていくことに関してはやっぱり思い出のある親御さんにとっては、すごくショックなことだと思うんですけども、この後の、この跡地をこのように活用しますよ、住人さんたちに「このように活用していってくださいよ」、ってまた説明することで、「じゃあ、私達ここをこんなふうに使いましょうか」って、卒業生の親とか、今住んでる親たちがまた考えるかもしれません。またそうなったら保護者の理解の仕方っていうのは変わってくるかなと思います。ただ単になくなります、閉鎖しますっていうんじゃなくてね、この後どのように地域の方に使っていってもらうとか、使えなかったとしても、何かのときに使ってくださいよとかっていう、ちょっと何か違う視点で説明することで、理解は深まっていくかなと思います。私も、自分の小学校がなくなった、田舎だったんですけど、なくなったことがすごくやっぱり寂しいんです。自分のこどもを連れていけないってところが寂しい。私この学校よ、っていうのが。だからそこをうまく何かで保護者が理解をしてもらえたなら、皆さん賛成してくれると思います。

教育委員(下方 恵理)

すごく責任重大というか、本当に教育に携わる者として、こども達ってもう、未来に向けて可能性の塊なので、三郷町からどんな姿で巣立っていってほしいか、三郷の教育を受けてどうなってほしいかっていうところは、やっぱり個人的などこなんですけど、この可能性を秘めたこども達を見るとね、やっぱり夢を語れるこども達になってほしいって思うんですね。三郷で、本当に地域と一緒にになって、自由な教育を受けてる中で、何かこうなりたいなであったりとか、こういうことをしていきたいっていう、これからこども達に夢を語ることって本当に許されているし、どうにでもしていける、そこにチャレンジしていけるようなこども達を送り出したいって言いますか、そのためにはやっぱり教育をどう考えるかっていう、私達がこれから三郷の教育をどうするかつて、またもう一度考えていく場面に来たので、統合とか長期的な視点で、本当に変わりゆく教育のあり方の中でどう育てていくかっていうのを、勉強をさせてもらいながら、

いろんな町もちょっと研究しながらですね、考えていけたらいいなと思います。

教育長職務代理者(窪内 真一)

ありがとうございます。たくさんご意見いただいたんですが、今日は今後統合していきましょうというところまで決めるんですか。どうなんでしょう。いろんな形を考えましょうということなんですかね。

教育長(大西 孝浩)

まず町長がご説明した通り、北小と三小を 10 年をめどに、統合を進めていく中で、教育委員さんの意見を聞いて、その意見を反映した学校作りをしていこう。で、10 年後には、めどは 10 年先ですね、その方向で、これから行政を進めていく、その中に三郷小の建て替えがありますので、建て替えの設計も含めて、例えば小中一貫で、今でしたら小学校から中学校にと思えば敷地を一旦出て、中学校の通学路を通っていかなければなりませんけど、中学校のテニスコートと小学校のグラウンド、高低差がありますけどそこを何か細工することによって、学校の敷地を出すして中学校に行ける。小中一貫教育も、例えば 4 年 5 年だったら、英語は中学になるかもしれませんし、そういうことを、今日聞いた意見を反映した、いわゆる小学校の校舎の設計といいますか、全体像を描いていくべきかなというふうに思いますので、今日はそういった形で教育委員さんの意見を聞かせていただいて、それを町長がどのように反映していくか。

教育長職務代理者(窪内 真一)

ということは、例えば一番最初にこれを見て、この話を初めて聞いた人が、三小が耐用年数が来る、もうちょっとしたら、10 年ぐらい先には北小の耐用年数が来ると、そしたら普通に北小もまた建て替えたらえんちゃうのっていうふうに考える方はきっといらっしゃるし、多分ここに来る前の段階の議論でそういうのもきっとあったと思うんですけど、それはやめましょうとなったわけですよね。統廃合すると、統合するということです。

教育長(大西 孝浩)

すみません、人口の推移で 3 枚目のペーパー、令和 13 年は町長言われた通り、今現在の確定数字なんですよ。今年生まれた子が、6 年経つと令和 13 年になりますので、この段階で、転入転出はありますけども、北小三小合わせて 858 名になってきます。北小これから人口増えるんじゃないのっていうことなんんですけども、住宅の開発的には惣持寺の調整池ができました、あの周辺におよそ 100 戸の家が建つであろうとなっています。そうなると北小はそのままは校区として編入するのっていうことも

考えられますけども、いやいや三小でもいいん違うの？なぜならば通学路を、河川敷を歩けば、北小行くより、三小の方が近くなるよっていう、そういうた議論を交わした中で、およそ6年先はこの人数ですけども、10年先となれば、人口が社会減になってしまって、それに引きずられて児童生徒数が減ってくるだろうという想定の中で、統合することに一番メリットがあるんじゃないのという考え方になっております。仰る通り、子育て支援であったり、人口を増やす施策は並行してやっていきますけれども、やはり今までイーストヒルズみたいに住宅開発が行われて、急激に人口が増えるという場所もありませんので、そこは考えた上で、その根底があって、人口推移を見てることです。それと、総合戦略を作りますけども、その段階でも人口の推移を、指標に基づいて出させていました。やはり減少傾向であるというのは出ていましたので、その辺もふまえて考えさせていただきました。

教育長職務代理者(窪内 真一)

ありがとうございます。いろいろ検討した結果、10年後をめどに、三郷小学校に統合すると。で、その前提でどういうふうに考えていきましょうというそういうことですよね。わかりました。

教育長(大西 孝浩)

あとは、何をするかということは教育委員さんをふまえた形で、教育大綱というベースがありますので、そこに盛り込んでいくべきなのかなと思います。

町長(木谷 慎一郎)

今日いろいろお話を聞かせていただきましても、これからやるべきことは新しい三郷小学校、まあ統合後のものですが、小中一貫の充実を含めた、それ自体の魅力を上げていくっていうのと、通学路の問題であったり、対処すべきところを対処していくという、両方を皆様のご意見をお聞きしながら、これからもしっかりやっていかないといけないかなというふうに感じました。

教育長職務代理者(窪内 真一)

他に何かご意見はありますか。もう十分ですか。

教育委員(篠原 英子)

その他のところでちょっとこれはどうなのか、学校のあり方等にくっつけていいのかどうかも、構想練ってはる最中なんで設計のところだと思うんですけども、公設フリースクール「ふらっと」が図書館で入ってます。そしたら図書館を建て替えることによって、また公設フリースクールの場所っていうのを、どこかに設定してくれると思うんで

すけども、その場所のときに、これはスタッフからの要望なんですけども、今室内で遊んでるんですけども、公設フリースクールに来るお子さんたちって、何らかの発達的な特性がありまして、じっとできないんですね。不登校になる子たちっていうのは、どこかしらなにかしら発達的なところで、じっとできないところがあって、1回身体を1時間十分に動かしてからしか、ちょっと何かやりましょうって言ったときとかに、集中できないんですよね。だから、もしもその構想の中の設計の中に、公設フリースクールの場所がありましたら、その屋外で遊ぶ場所っていうのも付けていただけたらありがたいかなっていうのは、責任者の方から一応聞いてきています。今、図書館のロビーで身体を動かしてもらってるんですけども、やっぱりね、皆さんのが、事情がありますのでちょっと控えめにしようかって、10の力を出さなかんところを5か6にしようかって言ってるんですけども、もしもその設計するときに、公設フリースクールで、屋外で遊べる場所っていうところをつけてくれたらありがたいかなと思います。で、統合することによって教育のあり方を、やっぱり見直していかなあかんって言わはったところで、1年間やってきて、今発達支援を受けてるお子さん達、三郷町はインクルーシブでやるっていうところが長いこと三郷町の教育の方針なんですけども、1年間「ふらっと」でお子さんたちを見てきまして、できたら通級指導教室、自校通級が来年の4月から始まりますけども、教育のあり方を見直されるときに、他校通級の時のような放課後じゃなくて、学校行ってる時間の中で、できないかなっていうのはスタッフの中で話していました。小学校のあり方についてのところなので言わしてもらったんですけども、ここで言っていいのかどうかわかんないんですけども、そんなんも頭の隅において構想を練っていただけたらありがたいかなと思いますので、よろしくお願ひします。

教育委員(秋田 知美)

重複しますが、近隣では小学校・中学校の建物は離れていますが、施設分離型で義務教育学校にした町があります。4年生までと5年生以降です。そういう分け方をしたのは、やっぱり6・3制では、今後、無理が出るだろうということ。もう一つは、魅力ある学校にという考えだと思います。遠くても三小に通いたいということが、一番大事なところでしょう。新しいもの、今までになかったもの、こんなビジョンを持っているということが保護者や地域の気持ちを変えさせることに繋がると思います。三郷町には三郷町にあったやり方があるはずです。柔軟に取り組み、通わせたい学校という視点を大事にしていけばと思いました。以上です。

教育長職務代理者(窪内 真一)

ありがとうございます。では最後に私からも、私も長いことPTA会長をやらせていただいてた間に、奈良県のPTAの委員長とかをやらせていただいてるときに、いろん

な他の地区のPTA会長さんの話を聞いてたんですけど、そのときに、三郷町は「ちいすてっぷ」みたいなのをやってるよとか、当時はまだ違いましたけど、ちょっと後になつてからですけど、その後は不登校の対策みたいなのも始ましたよとか、それとかあと障がいをお持ちのお子さんへの対応も、こんなことやってくれてるよっていう話をして、他の地域のPTA会長さんが、そんなことやってんのって、5、6人に言われたんじやなくて十何人に言われて、そのうち飲み会の席でそれを話してると、僕の周りにみんな集ってきて、こんなことどうやってるとかって言われるぐらい、三郷町の教育委員会の取り組みは、本当に三郷町全体も含めてすごく子ども達のことを思って、柔軟な対応をしてくださってるっていう思いがありましたし、その思いは三郷中学校建て替えのときにも、三郷町の教育委員会はものすごく、三郷町民の人たちは誇っていいと思うぐらい、すごくいけてますよっていうのを僕言わせていただいたんですけど、そういう素晴らしい取り組みをやっている、やっているからこそ、この統合、ぜひこれを機会に、すごく前向きになれる、保護者の皆さんも町民の皆さんも話を聞いて、そういうことならそれがいいんじゃないかと思えるように、やっぱり考えていかないかなんと私自身もそう思いますし、これからも皆さんで力を出し合って話し合って、ぜひ、良い教育行政に向かえるように、小学校の校舎の建て替えに済まない、大きな話になってしまいますけど、そういうところを考えていった方がより希望が見えていいのじゃないかなと感じました。今日の会議全体、皆さんのご意見聞いてそう思いました。ぜひ町長よろしくお願ひいたします。

では、他にご意見ございませんか。その他について先ほど篠原さんからありましたけど、その他について何かないですか。

では以上をもちまして令和7年度第1回三郷町総合教育会議を閉会いたします。本日は長時間にわたりどうもありがとうございました。